

特集1 創価大学のグローバルな取り組み

Feature 1: Becoming A Top Global University

特集2 日本初！創価大学でASAIHL総会を開催！

Feature 2: ASAIHL Conference held at Soka University for the first time in Japan!

特集3 21世紀に生きる女性のために～創価女子短期大学国際ビジネス学科特集～

Feature 3: For women living in the 21st century

—A special feature on the Soka Women's College Department of Global Business Studies—

98

創価大学ニュース

2018
Summer

SUN

Soka Univ. News



特集4 『創価大学 by AERA』 を語る

Feature 4:
Talking about
“Soka University by AERA”

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価で最高のS評価を獲得!

～アフリカ諸大学との交流も強みに～

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果



TOP GLOBAL
UNIVERSITY JAPAN

【構想名】

人間教育の世界的拠点の構築

平和と持続可能な繁栄を先導する
「世界市民」教育プログラム

【総括評価】

S

【特筆すべき成果】(グッドプラクティス)

【国際化の取り組み】

アフリカ諸大学との交流拡大

- 2016年度だけでも
年間合計32名の学生をアフリカに派遣
- 交流校もエジプト、ケニア、ガーナ、
南アフリカ、セネガル、ザンビアに加えて
新規にエチオピア、モロッコ、タンザニア
の大学を合わせて、
合計9カ国11大学に

出典:スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価 「進捗状況の概要等」,「中間評価結果」より抜粋

特筆すべき成果(グッドプラクティス)として、アフリカとの交流拡大

スーパーグローバル大学創成支援とは

文部科学省が実施する日本の大学の国際競争力の向上を目的に、国内外の大学との連携などを通じ、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグロー

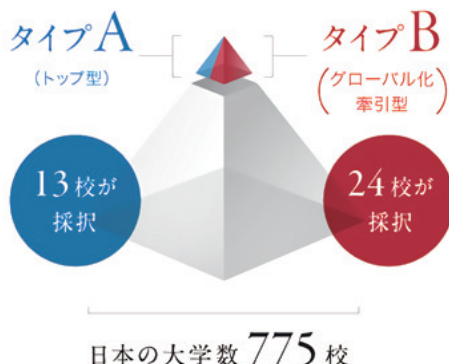
バル大学に対して重点支援する事業です。

創価大学はタイプB「グローバル化牽引型」として採択され、「人間教育の世界的拠点の構築—平和と持続可能な繁栄を先導する『世界市民』教育プログラム」事業を通して、国際社会を創造的に切りひらく「知力」と「人間力」を兼ね備えた「創造的世界市民」の育成を目指した取り組みを推進。日本人学生の海外派遣や外国人留学生の受け入れの拡大、教育プログラムの国際的通用性の向上、学内ガバナンスのグローバル化などの取り組みが認められ、5段階評価(S～D)のうち最高評価にあたる「S」評価を中間評価として得ることができました。

アフリカ諸大学との交流が高く評価

なかでもアフリカ諸大学との交流拡大については、特筆すべき成果(グッドプラクティス)の一つとして公表。「平和」「開発」「環境」「人権」に関する人類的諸課題が特に集約するアフリカ諸国の状況について学ぶ機会を多く提供し、2016年度だけでもケニアへの短期留学とボランティアを中心に年間合計32名の学部学生をアフリカに派遣。さらに、本事業を通じてアフリカの交流校も、新規にエチオピア・モロッコ・タンザニアの大学を加えて、合計9カ国11大学へと拡大したことについて、「ユニークかつ大学の特性を活かした取り組みを実施している。」と、本学のアフリカ交流の取り組みが着目され、高く評価するコメントが中間評価に付記されました。

【事業の概要】



出典:スーパーグローバル大学創成支援事業ウェブサイトより抜粋

ナイロビ大学との交流締結から30周年

創立者の手によって築かれた交流協定

互いにはじめての協定校

1988年5月に締結された学術交流協定は、ナイロビ大学にとっては創価大学が初の日本の大学との協定であり、本学としてもはじめてのアフリカの大学との交流協定でした。この協定前年には創立者・池田大作先生が、ムビシ副総長と会談されており、まさに創立者の手で礎が築かれた本協定によって多くの学生や教職員の交流が30年にわたり行われてきました。今回は3月30日～4月4日の日程でエノス・ンジェル人文社会学カレッジ長、ピーター・ワサンバ文



創価大学、ナイロビ大学の学生同士による交歓会



田代康則理事長、馬場善久学長とナイロビ大学の教職員、同学学生との懇談

学部長、オダリ・マスミ・ハシモト文学学科長(本学卒業生)ら教職員4名および学生9名が来学。本学の入学式や学生との交流会などに参加し、田代康則理事長、馬場善久学長との懇談では今後の留学プログラムの充実など、さらなる連携の強化について意見交換を行いました。

学生同士による触発

交流開始当初ナイロビ大学の来学者は教員だけでしたが、創価大学の学生の振る舞いに感動したナイロビ大学教員の意向で

学生も参加することに。本学の入学式や学生との交流会に参加したナイロビ大学の学生からは「真摯に人と向き合う姿勢や誠実さに感動しました」、「学生が一つ一つの行事や式典にも意義を見いだそうとしていました」などの意見とともに「ぜひ、創価大学の大学院に進学したい」との声を聞くことができました。また、ナイロビ大学の学生に対しては「すべてのことを学んでいこうという姿勢を強く感じました」と、双方の学生がお互いに触発を与え合う交流となりました。

「双方向の学び」によってさらに実りある人材交流を 西浦教務部長に聞く ～ ナイロビ大学留学経験者として

私は、大学院生のときに1年間ナイロビ大学へ交換留学しました。当時はまだ日本からアフリカへ学生を派遣することが非常に少なく、ナイロビ大学に東アジア系の学生は、日本人の私と韓国の留学生がもう1人いるだけでした。今や本学から年間で30名の学生がアフリカに派遣されている本交流の発展は、どちらか一方が教える側というスタンスではなく、両国が「双方向に学ぶ」姿勢があったからではないかと考えています。2000年に半年間、創価大学に滞在された

ナイロビ大学のインダンガン教授は、帰国後にナイロビ大学の授業で本学の創立者との出会いや人間性について何度も取り上げられ、その授業を受けた学生がこの交流協定によって来学したことがありました。また、私は留学後も30回以上にわたってアフリカを訪れるなどつながってきましたが、人々の困難を乗り越えていく力の強さや、自分の目で確かめたアフリカ発展の姿に、日本が学ぶことが多くあることを学生に伝えています。これからも、この「双方向の学び」によ



西浦 昭雄 教務部長(アフリカ研究センター長 兼任)

て本学とアフリカの交流がさらに実りあるものになるよう尽力していきたいと思います。

Feature 1: Becoming A Top Global University

創価大学 \ おいでよ！私たちの国へも！ / 選べる留学制度7つの道

海外で学びたい学生を留学前から留学中、帰国までフルサポート！

創価大学では多彩な留学制度で、一人ひとりの関心や目的に合わせた留学が可能です。

費用面のサポートも充実しているのでとても安心です。



創価大学の 留学制度

1 交換留学

創価大学と学生交換協定のある、海外諸大学(35カ国・地域82大学170名枠2017年度実績)への留学制度です。各交流校の指定する期間(4カ月～最大1年間)の在学留学が可能。本学への単位交換申請もできます。

2 認定留学

学部授業の単位取得を前提とした、在学私費留学をする学生への支援制度。学位授与権を有する海外の大学から留学先を選択し、個人で入学許可を取得。詳細は国際課へ。

3 1セメスター留学

アメリカの交流4大学(デラウェア大学、マイアミ大学、デンバー大学、ニューヨーク州立大学オルバニー校)から留学先を1つ選び、4～8カ月間(8月中旬～)、英語を中心に学ぶプログラム。大学が海外傷害保険を負担し、創価大学への単位交換申請が可能。

4 文学部・法学部 ダブル・ディグリーコース(DD)

4年間で創価大学と海外交流校との2つから学位を取得できるコース。文学部は北京語言大学(中国)、バッキンガム大学(英国)、法学部はバッキンガム大学(英国)で実施。

※この他にも各学部主催の短期研修もあります。

5 海外短期研修

交流校で約2～4週間、語学学習や文化体験を行う海外研修。

●夏季研修:ジョージア州立大学、慶熙大学、ヤンゴン外国語大学、グリフィス大学、ナイロビ大学(隔年開催)

●春季研修:フィリピン大学、セントザビエル大学、トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学、ラトローブ大学、グアナファト大学、北京語言大学・上海大学、シエナ外国語大学、ブルゴーニュ大学、ライプツィヒ大学、イースト大学、チャールストン大学

6 海外インターンシップ

生きた英語力の向上と、就業力を身につけることを目的とした約4週間の海外研修。共通科目4単位の認定が可能。

●春季:カナダ・バンクーバー、オーストラリア・メルボルン、タイ

●夏季:ベトナム

7 海外ボランティア

大学主催で海外にて約2週間のボランティア活動に参加するプログラム。共通科目2単位の認定が可能。

●夏季休暇中:カンボジア、ケニア

●春季休暇中:ミャンマー



小冊子「留学の達人」にも注目! 大学祭で発行される、留学体験やアドバイスの満載の小冊子

◎留学までの7つのステップ



行ってみた

聞いてみた

それぞれの留学体験

from Cambodia



カンボジア・ボランティア・プログラムへの参加



国際教養学部
国際教養学科 3年
城戸 孝二さん

カンボジアの子どもたちが 外国人と接する意義

1年生の秋学期から2年生の春学期にかけて南カリフォルニア大学に留学し、英語の力をつけ、その英語力を誰かのために使いたいと考え、2年生の夏休みに行われたカンボジア・ボランティア・プログラムに参加しました。

今回のプログラムは、創価大学でも初めてのものだったので、過去の情報がありませんでした。でも、留学情報ステーションや国際課で話を聞くことで、これは自分の気持ちに合っていると“直感”しました。



2週間のボランティアの内容は、日本語・日本文化教育、英語教育を、現地の小学校低学年以上の子どもたちに行うことが一つ。シェムリアップという都市の郊外にある、現地のボランティア団体がコツコツと作り上げたサマースクールのような木造の建物で行われます。この建物の周囲に花壇を作ったり花を植えたりするガーデニングが、もう一つのボランティア活動の内容です。中学生以上には英語で、小学生には現地のボランティア大学生が、クメール語で説明をします。

小学生の子どもたちには英語が通じない

ので、当初はボランティアである自分たちの存在意義に疑問を感じましたが「より重要なのは、子どもたちが日本人をはじめとした外国人と接することで、外国人というものを知ること」と引率の方に教えてもらいました。子どもたちが私たちを見てどう感じるかが大切なのです。それで、私は自分の役割が深く理解できました。自分の海外での経験が将来どのように役立つか、今はまだ分かりません。でも、必ず役に立つという確信を持つことができました。

from Philippines



フィリピン・イースト大学 研修への参加



教育学部
児童教育学科 3年
堤本 理菜さん



自分から一歩前へ出ることで得た経験

「英語の勉強と人生経験になれば」と思っ、初めての海外に飛び出し、参加したのは、フィリピン・イースト大学研修です。行く前は、どういう場所なのか不安もありましたが、行ってみたら不安は消えました。11日間の研修でしたが、現地ではすぐに交流会が開かれ、イースト大学の学生たちと仲良くなれました。

私はあまり英語が得意ではありませんが、自分が拙い英語を話しても相手が一生涯懸命に聞いてくれるので、私も「話して

みたい」という気持ちが高まりました。ボディランゲージも交えれば、思っていた以上に対話できたこと、そして、イースト大学の学生さんたちの“おもてなしの心”が本当に嬉しかったです。

「小学校の先生になりたい」という将来の夢を話すと、イースト大学の学生からは「フィリピンは子どもの教育環境がまだあまり整っていないで、路上生活の子どももいます。だから私たちは、今一生懸命勉強をしているのです」と教えられました。日本で当たり前の環境も、フィリピンでは

違うことを知り、自分に将来何ができるか、考え始めるきっかけになりました。帰国してからも現地で育んだ友情を大切に、SNSなどを通じて交流を続けていますが、ボディランゲージができないので、いつの間にか単語や文法を自分で調べるようになり、研修が終わっても自分で学ぶ姿勢は続いていることに気づきました。これから海外へ行くことを考えている後輩には、自分から一歩前へ出ることで、いろいろな人と仲良くなれる体験をしてもらいたいです。

Feature 2: ASAIHL Conference held at Soka University for the first time in Japan!

2018 ASAIHL Conference

The Association of Southeast Asian Institutions of Higher Learning

日本初！創価大学でASAIHL総会を開催！

東南アジアなどにある大学240校が加盟する東南アジア高等教育協会（ASAIHL）の年次総会（文部科学省、東京都八王子市後援）が3月26日から28日までの3日間、創価大学で開催され19の国・地域から200人以上の研究者が参加した。日本では初開催となった。



3月26日ディスカバリーホールで開幕式が行われた

ASAIHLとは

ASAIHLは、東南アジア域内の高等教育機関の相互支援を通じ、教育、研究、公共サービスの進展に貢献する目的で、1956年に創設され、現在では東南アジアのみならず、ヨーロッパや北米など世界25カ国・地域の240大学が加盟している国際学術機関。日本では本学の他、京都大学、広島大学、慶應義塾大学、琉球大学の5大学が加盟している。今回の総会は、文部科学省が進める「スーパーグローバル大学創成支援」における本学の取り組みの一環として開催。本学は、30年以上前にASAIHLに加盟し、これまでに加盟大学との交流や総会などへの参加を通して東南アジア地域の高等教育機関との学術教育交流ネットワークを拡大してきた。現在、ASEAN7カ国すべての国の大学と交流協定を締結していることなどの、学術教育交流が評価され、今回、創価大学がホスト校となり、総会を行うこととなった。



春爛漫のキャンパスに世界各地から集った参加者

総会の様子

総会初日、各国から来日した参加者がディスカバリーホールに一堂に集い、開幕式が行われた。席上、同協会のニンナット・オーランボラプス事務局長は、同総会が日本で初めて本学で開催できたことへの感謝を述べ、「創価大学は、池田博士の教育哲学のもと、世界平和と人類幸福へ貢献する世界市民の育成に多大な貢献をしている」と紹介。また基調講演では、韓国・慶熙大学の朴榮國副総長、同大学の李榮俊人文学部長、大学改革支援・学位授与機構顧問の木村孟博士の3名が登壇。慶熙大学の朴副総長は、同大学の

創立者趙永植博士と本学創立者との語らいから生まれた両大学の交流が20年に及ぶことについてふれ、今後さらなる友誼の絆が結ばれることを望んでいると語った。総会2日目には、米国・コロンビア大学ティーチャーズカレッジのウィリアム・ゴウデリ博士が登壇。本学の創立者が同カレッジの講演で示した“世界市民の要件”について、現在の教育の意義や役割を考える上で重要な視点を提供していると語った。その他、期間中には、各国の高等教育に関するレポート発表、パラレルセッションが行われ、最終日には、高尾山を見学し大成功で閉幕した。

Day1



開幕式 ニンナット事務局長の挨拶



基調講演 慶熙大学の朴副総長

Day2



総会2日目 コロンビア大学・ゴウデリ博士講演

Day3



総会3日目 学生スタッフとともに高尾山を見学

閉会式でのニンナット事務局長の挨拶(主旨)

今回のような温かでこまやかなホスピタリティーを頂戴したことはこれまでありませんでした。参加者全員がそう感じております。特に学生の皆様のていねいな対応には感銘しました。皆、素晴らしい笑顔で見事な英語を話されており、創価大学のグローバル人材育成の成果が出ていると感じました。

創価大学は日本の大学のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」としてアジアをはじめ、世界各地の高等教育機関とのネットワークを持ち、創立者池田博士の指導のもと、目覚ましい発展を遂げられています。また今回の総会のテーマである「世界市民教育」を実践されて、世界へ有能な人材を輩出していることは素晴らしいことです。

参加者の感想

創価大学のキャンパスは桜が満開で素晴らしい環境です。木々や花々も多く教育環境としては最高です。中央教育棟も最先端の技術を取り入れた教室や施設に驚きました。世界中から来る留学生も喜ぶと思います。ぜひ、本学の学生も創価大学に送りたいです。

カンボジア・ビルト・ブライト大学学長

これだけ大きな規模でアジアの著名な大学から研究者が集う総会は稀です。創価大学の皆様からご紹介いただき、この度同協会に加盟させていただき嬉しく思います。創価大学のネットワークの広さと深さを知り感銘しました。今後も創価大学と連携を取り、大学のグローバル化に進んでまいりたいと思います。

広島大学

Feature 3: For women living in the 21st century

-A special feature on the Soka Women's College Department of Global Business Studies-

21世紀に生きる女性のために

創価女子短期大学国際ビジネス学科特集



自主的なコミュニケーションスタイルで、語学力の向上と異文化体験ができるイングリッシュラウンジ

国際ビジネス学科スタート!

国際ビジネス学科の学び

本学科では英語とビジネス、両方を学ぶことも、どちらかに特化して学ぶこともでき、一人ひとりの進路に合わせて専門知識とスキルを修得できます。よりハイレベルな英語を学びたい方には英語特別プログラム“E-Swans”を、高度なビジネスのスキルを身につけたい方にはビジネス特設クラスを開講しています。

充実した学生生活

創価女子短期大学では充実したキャリア教育・就活支援も行っています。定期的なOG懇談会や各種就活対策講座の開催、さらに就職活動を支援する選抜制の「創短就勝塾」を設けています。また、無料の資格試験対策講座や日常的な学習相談、留学生との英会話なども開催。学生生活を強力にバックアップします。

グローバル化と多様化が進む社会において、女性の力がますます求められています。そのような社会で活躍する女性リーダーを育成できるよう、本学では今春より国際ビジネス学科がスタートしました。本学科は、幅広い教養の上にビジネスと英語の両分野における実践的な専門教育を通して、グローバルな視野を育み、社会の変革を担い支える創造性豊かな女性の育成に取り組みます。ぜひ短大で、日本各地から集う仲間と共に学び、グローバル社会で求められる力を身につけませんか。教職員一同、皆さんの夢を全力で応援します。

国際ビジネス学科・学科長
石井健司 教授



ハイレベルな英語力を
身につける

E-Swans

English Program for Global Swans

E-Swansは「もっと英語を話したい!」「将来英語を使って活躍したい!」そのような方を対象に開講する英語特別プログラムです。2年間ハイレベルな講座を受講し、英語コミュニケーション力の向上を目指します。2年次修了時には自身の意見や考えを、自信を持って英語で発信できるようになり、社会で求められるTOEIC®730点以上の取得を目指します。

定員	30名
選考方法	書類審査、 入学時のTOEIC®スコア等
特典	受講者は全員無料でTOEIC® オンライン講座を受講可能



受講者の声
藤田 真那さん

私は英語コミュニケーション力の向上を目指し、E-Swansを受講しました。この授業は高校までの英語学習とは異なり、授業は基本的にALL Englishで行われ、実践的な英語を学ぶことができます。2年間でTOEIC®730点以上を取得し、グローバルに活躍する力を身につけたいです。



上級資格を獲得する ビジネス特設クラス

情報分野や簿記・会計分野で上級資格に挑戦する学生のためのクラスです。簿記・会計分野では1年次修了までに日商簿記検定2級の合格を、情報分野では2年次前期までに総合的なパソコンスキルを証明するOfficeマスターの取得を目指します。



受講者の声
稲原 梨音さん

社会で求められる実践的な力を身につけるため、2つの特設クラスを受講しています。授業のスピードは速く、課題量も多いですが、少人数の授業のため先生との距離も近く、質問しやすい環境です。半年で2つ以上の上級資格の取得を目指しています。

Information

短大の入試制度が変わります

自己推薦入試がスタート!

公募推薦入試で「小論文」を導入!

一般入学試験で英語スコア等 所持者への優遇措置を実施!

お問合せ

E-Swans、ビジネス特設クラスに関する詳細は創価女子短期大学パンフレットを、入試制度に関しては、入学試験要項をご参照ください。各種資料請求は創価女子短期大学ホームページからお申し込みください。

お電話、または創価女子短期大学ホームページの「お問合せ」もご利用ください。TEL.042-691-9480



創価女子短期大学HP

Feature 4: Talking about “Soka University by AERA”



『創価大学 by AERA』を語る

朝日新聞出版社より、『創価大学 by AERA “ここに世界がある”』が2018年4月に発行され、「創価大学の本当の価値」を伝える一書として好評を博しています。2018年5月3日（木・祝）には、発行を記念してトークイベントが中央教育棟の教室で開催されました。

イベントで語られた創価大学の価値

開催された発行記念イベントでは、ムックに登場している卒業生の渡部正子さん（わたべ まさこ）が「創価大学での学びと現在」をテーマに講演。ゼミでの学びやクラブなどの課外活動で挑戦を重ねたことに触れながら、大学生活を通して何事からも学ぶ習慣が身についたことや、国内外に幅広いネットワークが構築できたことを紹介しました。

続いて、朝日新聞出版社AERAムックの杉

澤誠記編集長、福井洋平副編集長によるスペシャルトークでは、AERAムックで創価大学特集を企画した経緯やタイトルの「ここに世界がある」に込めた思い、取材を通して感じたことなどが語られました。最後に田代康則理事長が、スーパーグローバル大学としてキャンパスのグローバル化の推進をはじめ、学業・資格試験、スポーツでの活躍、創価大学の取り組みなどを紹介しました。



卒業生 渡部正子さん



田代康則 理事長

Message from editor-in-chief

AERA編集長が語った 創価大学の魅力と今後への期待

創価大学は、大学間では都心回帰の流れがある中で、自然豊かな場所で教育環境を提供している大学。のんびりしている雰囲気かと思いきや、キャンパスには留学生も多く、学生の部活動も盛んで、とても開かれた大学という印象を受けました。

創価大学は比較的若い大学であり、歴史が浅い分、新しいことにどんどん取り組まれているのが良いのではないのでしょうか。これからの時代は変化の連続であり、既存の概念

をどう壊していくかが求められてくると思っています。物事を0から1に創りあげていくことは、非常に大変な作業ではありますが、とても大事なことであると思います。

今回の取材を通し、創価大学の卒業生からは「道なき道を拓いていくフロンティア精神」を感じました。これから新しい大学であることの強みを活かして、人が歩んでいない道を開拓するような学生を輩出して欲しいと思います。



AERA編集長 杉澤誠記氏



Amazonランキングでもベストセラー！ ありのままの創価大学が描かれた一冊

朝日新聞出版社より、『創価大学by AERA「ここに世界がある」』が2018年4月2日に発行されました。アエラ編集部の記事が約1年半かけて取材し、“ありのままの創価大学の姿”を一冊の本で表現しています。世界各地の大学へ学生を送り出し、また世界中の学生に広く門戸を開

く本学の強みである「グローバル力」を中心に、現役生や卒業生の姿、就職・資格のサポート体制、学内施設や授業の様子、識者の声“創価大学考”などを紹介し、創立50周年に向けて、あらためて「創価大学の本当の価値」を伝える一書となっています。

登録情報

ムック:116ページ
出版社:朝日新聞出版(2018/4/2)
言語:日本語
ISBN-10:4022791799
ISBN-13:978-4022791795
発売日:2018/3/30

【主な内容】

- **世界で活躍する卒業生たち**
チェコ、ボリビア、アメリカ、フィリピン、ケニア 5カ国を現地取材
- **創価大から世界へ、世界から創価大へ**
・オーストラリアの留学生活に密着 ・グローバル人材育てる「GCP」とは？
・外国人留学生たちの素顔
- **学部の真価 新たな伝統をつくる「学び」**
- **なぜ創価大は就職に強いのか**
- **創価大学のよいところ50 創大生が本気でほめます**
- **キャンパスMAP、学食うまいもの対決、創大生ファッションスナップ**
～創価大の魅力に迫る～
- **有識者が見た大学像**
安西祐一郎氏 (日本学術振興会理事長)
佐藤優氏 (作家・元外交官)
程永華氏 (駐日中国大使)
常田照雄氏 (毎日新聞社国際事業室顧問)
※所属・役職は取材当時のものです。
- **現役生座談会**

- **クラブ紹介**
- **創価教育とは**
- **馬場善久学長インタビュー**
- **創立者 池田大作氏に聞く**
創価大学建学の理由/創価大学の果たすべき役割/学生たちへのメッセージなど



第45回

Soka University Summer

夏季大学講座のお知らせ

**8/31(金)、9/1(土)、9/2(日)に開催！
内容充実、多彩な41講座をご用意し
皆様の参加をお待ちしています**

45回目を迎える夏季大学講座。今年は、8月31日(金)から9月2日(日)までの3日間で計41講座を開講します。昨年は、9,882人が受講。本講座は、創立者池田大作先生のご提案で「市民に開かれた大学」を目指し、開学3年目の1973年より始めました。充実した教育設備が整った中央教育棟や本部棟などで、創大生活を満喫してください。

●内容

開講日 2018年8/31(金)・9/1(土)・9/2(日)

会場 創価大学 東京都八王子市丹木町1-236

聴講資格 自由

聴講料 1講座 2,500円(税込)

※1日に聴講できるのは1講座です。

※申し込み後の変更ならびに返金はできません。

※「創友会・会友会カード」(クレジットカード併用)をお持ちの方は、当日、割引額(500円)を返金いたします。

※講座内容等詳細はWEBにて「創価大学 夏季大学講座」で検索してください。

●時間帯

午前の講義 10:00～11:30

昼食・休憩 11:30～13:30(校内散策など)

午後の講義 13:30～15:00

※お申し込みの1講座は、午前・午後合わせて3時間聴講することになります。



●ピストンバスの案内

【往路】

JR八王子駅北口14番乗場より大学構内直行便を、午前7時半から9時半まで運行します。

【復路】

大学構内2カ所よりJR八王子駅直行便を、午後3時から4時まで運行します。

※午後4時以降は、通常の路線バスをご利用ください。

●申込期間

2018年7月9日(月)午前10時から

8月30日(木)午後11時まで。

コンビニエンスストア「ローソン」・「ミニストップ」各店のチケット発券機Loppi(ロッピー)にて購入できます。

夏季大学講座Lコード:38999

魅力ある講座からピックアップ



'68年「池田提言」と 日中友好の未来展望

文学部 教授
高橋 強

本学創立者の池田大作先生が1968年に日中国交正常化の提言を発表し、その精神に基づき日中友好を促進してこれから今年50周年を迎えます。ここから次の新たな50周年を目指し、継承してゆく精神とは何か、新たなチャレンジとは何かを考えていきます。



楽しく 孫活ソフリエ

看護学部 教授
長沼 貴美

孫たちにとっては大好きなおじいちゃん、おばあちゃん。でも祖父母世代は、少し戸惑いながら孫たちに関わっているようです。そこで奥深い孫育てについて、一緒に考えていきませんか？これからはおじいちゃんたちも出番ですよ！

er Seminar 2018

●2018年度 夏季大学講座一覧

開講日	No.	担当教員	学部	役職	講義テーマ	会場
8/31 (金)	1	須藤 悦安	法学部	学部長・教授	身近な消費者問題ー最近の話題	M402
	2	山田 隆司	法学部	准教授	レッツトライ!新聞作りーニュースの見方が変わる	M401
	3	菅野 博史	文学部	教授	『法華経』の中心思想(1)	ディスカバリーホール
	4	杉山 由紀男	文学部	教授	創価教育と男女平等・男女共同参画	AW301
	5	玉井 秀樹	文学部	教授	平和学を活用するためにー平和・紛争解決学入門	AB103
	6	渡辺 一弘	理工学部	教授	イノベーション:福沢諭吉からスティーブ・ジョブズ	AE452
	7	杉本 一郎	国際教養学部	教授	多様性を豊かにー複合社会マレーシアの挑戦から学ぶー	AW302
	8	若井 幸子	教職大学院	准教授	子ども達の可能性を見つめて	AB102
	9	松森 秀幸	比較文化研究所	准教授	仏典とはなにか?ー漢訳経典の成立事情	AW404
	10	亀田 多江	短大	准教授	ロボットと暮らす共生社会を考えてみよう	AW303
9/1 (土)	11	田中 亮平	文学部	副学長	創造と友情の歴史ーゲーテ=シラーの往復書簡から	AW301
	12	高木 功	経済学部	研究科長・教授	国連持続可能な開発目標(SDGs)とBoPビジネスの可能性	AE452
	13	中山 雅司	法学部	教授	「世界人権宣言」70年ー池田・アタイデ対談を読むー	AW302
	14	坂井 孝一	文学部	教授	承久の乱直前に行われた大内裏再建の歴史的意義	AB102
	15	山岡 政紀	文学部	教授	人間学の扉(3)普遍的宗教性から寛容と協調を学ぶ	M402
	16	中村 みゆき	経営学部	教授	江戸商人に学ぶビジネスー商人の企業家精神と倫理	AW303
	17	安田 賢憲	経営学部	准教授	ゼロから学ぶ戦略フレームワーク	AE453
	18	平井 康章	教育学部	准教授	生涯学習と社会参加ーシニアの生きがい・学びがいー	S201
	19	董 芳勝 足立 広美	教育学部 教育学部	准教授 准教授	音楽の力と脳科学の関係	池田記念講堂
	20	山上 敦士	理工学部	准教授	遠くて近い!?「素数」が織りなす不思議な世界	AB103
	21	久米川 宣一	理工学部	講師	八王子と桑と健康	AW404
	22	中泉 明彦	看護学部	学部長・教授	がんに負けない生き方	ディスカバリーホール
	23	本田 優子	看護学部	教授	心の健康と自分らしい心身のセルフケアを考える	S202
	24	黒木 松男	法科大学院	法学研究科長・教授	知って得する保険の知識	M401
	25	李 佩	ワールド ランゲージセンター	講師	初心者向け実用型中国語	AW403
	26	石川 由紀子	短大	准教授	やさしい英会話講座	AE454
9/2 (日)	27	神立 孝一	経済学部	副学長	江戸時代における農民の消費行動ー市場とお酒を中心にー	AW301
	28	鈴木 将史	教育学部	副学長補・学部長	江戸時代の「和算」に挑戦!ー『塵劫記』の世界ー	AB102
	29	朝賀 広伸	法学部	教授	自分が変われば世界が変わる!ーよりよい地球環境を目指してー	AE452
	30	佐々木 精治	文学部	教授	『罪と罰』を読みなおすー張り巡らされた仕掛けと隠された意味ー	M402
	31	高橋 強	文学部	教授	’68年「池田提言」と日中友好の未来展望	S202
	32	井上 大介	文学部	教授	医療人類学の世界ー文化が与える健康と病への影響	AW404
	33	前田 清隆	経営学部	教授	学問と経済観念ー賢明な経済生活を送るためにー	AW403
	34	鈞 治雄	教育学部	教授	人生を豊かにする「楽観主義」の力	池田記念講堂
	35	寺島 美昭	理工学部	教授	ICT技術によるスマートな生活への期待と危険	AE453
	36	木暮 信一	理工学部	教授	わたしの最終夏季大学講座ー「脳」から「ミトコンドリア」へ	AW302
	37	長沼 貴美	看護学部	教授	案に楽しく孫活(まごかつ)ソフリエ	M401
	38	添田 百合子	看護学部	准教授	今日からはじめる健康学	ディスカバリーホール
	39	吉川 成司	教職大学院	研究科長・教授	心のエクササイズ:ポジティブ心理学を教育へ生かすために	AB103
	40	鈴木 正敏	短大	教授	健康へのアプローチー食事そして運動ー	S201
	41	石川 由紀子	短大	准教授	やさしい英会話講座	AE454



建学の精神に基づき、学生の叡智を磨き、社会に役立つ人間を育てる

「私が鍛えた学生が誰に対して恩返しをするのか。それは後輩たちにするのです」

To whom will the students I trained return the favor? The Underclassmen.

創大大学院から富士短大を経て本学へ帰り 自動車のソフトウェアを巡る経営戦略研究に着目

安田准教授は、創価大学経営学部を卒業し、創大大学院経済学研究科を修了。創立者が卒業された東京富士大学短期大学部で教鞭を執り、母校へ帰ってきました。大学院では経営戦略論や多国籍企業論を中心に研究し、現在は「組込システムの標準化を巡る協調と競争について」というテーマで研究を進めています。PCのソフトウェアと異なり、家電製品や自動車などのソフトウェアは一度組み込まれると取り出すことができません。こうした製品を組込システム製品といいます。これらは組み込まれたソフトウェアの標準化の在り方が企業の競争戦略に大きな影響を与えます。安田准教授はこのことに着眼し、研究を進めているそうです。

ビジネスプランコンテストなどへの挑戦を通して 走りながら必要な知識と能力を身に付けることを目指す

経営学部の1年生には経営学原理を教え、2年生には人間主義経営演習のコーディネーターとして接しています。「富士短大時代から心がけてきたのは、学生のやる気を引き出す授業です。学生が授業に興味を持てないとしたら、それはこちらの責任です。難しいことをいかに分かりやすく教えられるのか。この点を常に意識し、具体的な事例をもとに理論を教えています」。

3年生からはゼミが始まり、より専門的な授業内容になりますが、安田准教授が重視していることは、学生同士で質の高い切磋琢磨ができる場作りだそうです。「私は大学にとって大切な“お客さん”のひとつは、学生を採用する企業だと考えています。ですから、企業が求める人材を育てることは私の重要なミッションと捉えています。企業が求めるのは、コミュニケーション力があり、問題発見力と問題解決力が高い人材です。そのために必要なのは、学生同士が主体的に徹底的に議論を重ね、能力を磨き合える場であり、その環境作りに注力しています」。

ビジネスプランコンテストなどで多くの受賞歴を誇るゼミ生には「社会人としての基礎的な力を養うための一つの方法として、コンテストなどへチームで参加するよう後押しをしています。できるだけ高い目標を掲げ、仮説を立て、その検証を繰り返して、何度も仮説を構築し直すことで論理思考力や分析力などを磨く。こうして走りながら必要な知識や能力を身に付けてもらえるように心を砕いています」。

創大の卒業生として 自分が受けた恩を後輩である 教え子たちに返すスタンス

安田准教授は、自身が創大の卒業生であることから、自身の学生への献身は、「恩返しは後輩へ」という創大の文化の延長にあるといいます。そんな価値観のせいかゼミでは、3年生のプロジェクト活動を4年生がサポートをする気風が定着しているそうです。「私たちが学生の叡智を磨き、有為な人材を社会に輩出する目的は、建学の精神という永遠のテーマの継承とその実現にあることを忘れてはなりません。そのために、学生と教員は立場を超えて、いわば“同志”として触発し、切磋琢磨し合い、ともに大学建設に貢献していきたい、と思っています」。



専門分野である国際経営論や経営戦略論、さらに最近の研究テーマとなっている自動車の組込ソフトウェアの標準化に関する論考などの著書・論文執筆が多数ある



数々のビジネスコンテスト賞が並び



Profile

安田 賢憲

Yoshinori Yasuda

千葉県出身。1971年生まれ。1994年創価大学経営学部卒業、2000年創価大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得。2002年東京富士大学短期大学部専任講師、2005年同短大准教授、2006年から2009年3月末まで立命館大学社会システム研究所客員研究員、2011年から創価大学経営学部准教授。日本経営学会、組織学会、多国籍企業学会、国際ビジネス研究会、アジア経営学会、産業学会に所属。専門は、国際経営論、経営戦略論、ソフトウェアビジネス研究。

第48回創価大学・第34回創価女子短期大学入学式を挙

Celebrating the 48th Soka University & 34th Soka Women's College Entrance Ceremonies

第48回創価大学・第34回創価女子短期大学入学式が4月2日に、桜の花咲き薫るキャンパス内の池田記念講堂で挙

式典では、田代康則理事長が創立者からのメッセージを紹介。本学創立者の池田大作先生はメッセージの中で、新入生への言葉として、“朗らかに学びと成長の並木道を進め”、“世界市民の知恵と友情の並木道を開け”、“未来を照らす不屈の希望の並木道を創れ”と3点に言及し新入生にエールを送りました。

また、式典にはインド・デリー大学セント・ステイブンス・カレッジのジョン・バルギース学長が参加し、新入生を祝福しました。ジョン・バルギース学長は「新入生の皆さんは、様々な理由から創価大学を選ばれたのだと思います。知識と英知を得るため、学位を取得するため、あるいは友人が創価大学に入学したからかもしれません。どのような理由であれ、創価大学が皆さんを歓迎した最大の理由は、皆さんに世界を変えてほしいからなのです」と祝辞を述べました。



キャンパスの様子



ジョン・バルギース学長



入学式に参加した留学生ら



祝辞とともに新入生を鼓舞する馬場善久学長

2018年4月度の新任助教紹介

Introducing 2018's newly inaugurated assistant professors

SUN97号で掲載できなかった、新任の助教を紹介します。

新任助教

経営学部 助教 シュレスタ・サハデブ
助教 蒙 雪超

教育学部 助教 岩木 勇作
助教 金 明姫

理工学部 助教 白石 正彦
助教 山崎 大志
助教 青木 英莉子
助教 中国 正寿
助教 岸 正敏

看護学部 助教 福井 完児
助教 吉原 和子
助教 小平 明日香

総合学習支援センター
助教 内田 さくら

日本語・日本文化教育センター
助教 水島 亜美

ワールドランゲージセンター
助教 エクスタイン・ジョナサン・ジョーダン
助教 ラトル・チャヤンダール・シン

2018年度学校法人創価大学 事業計画説明会を開催

Holding a Briefing on the 2018 Soka University Business Plan

4月27日、「学校法人創価大学事業計画説明会」を開催しました。馬場善久学長からは、創価大学学長ヴィジョンについて説明。本年度より、「創立50周年事業」と「2021年以降の中長期計画の策定事業」の検討を開始することに言及しました。石川恵子短大学長からは、「国際ビジネス学科」の紹介と、創価女子短期大学の取り組みを紹介しました。最後に田代康則理事長は、「教職員が力を合わせて各大学が掲げる教育ヴィジョンを達成していきたい」と述べました。



「スーパーグローバル大学創成支援報告会」を開催

Briefing session on the Top Global University Project

4月20日に、「スーパーグローバル大学創成支援」事業で掲げた取り組みの成果や今後の計画などを、学内外に発信する「スーパーグローバル大学創成支援報告会」を開催しました。報告会では、本学の馬場善久学長、文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室の進藤和澄室長の挨拶に続いて、本学グローバル・コア・センター長の田中亮平副学長が取り組みやその成果を報告しました。続いて、本学学生および卒業生によるプレゼンテーションのあと、本学の事例報告として、同事業の一環で本年4月に開設した国際平和学

研究科の研究科長である小出稔教授がその概要を紹介。教務部長の西浦昭雄教授は、ディプロマ・ポリシーやアセスメント・ポリシーなどを軸に改善サイクルを好循環させる教育システムについて報告しました。最後に、東京外国語大学の林佳世子理事・副学長が「東京外国語大学の留学」と題して講演、様々な取り組みの事例報告がありました。



馬場善久学長の挨拶



卒業生の大島輝一さんの発表



事業の成果を報告する田中亮平副学長

ロシア駐日大使のミハイル・ユーリエヴィチ・ガルージン氏が講演

Lecture by Mikhail Yurievich Galuzin, Russian Ambassador to Japan

ロシア駐日大使のミハイル・ユーリエヴィチ・ガルージン氏による講演会が6月19日に開かれ、本学の教職員、学生ら約250人が参加しました。今回は文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」の一環として行われ、3月の駐日大使に就任以降、本学での講演が日本の大学で初めてとなりました。

ガルージン大使は、モスクワ大学で日本語を学び、1982年から83年まで交換留学生として創価大学で学びました。そうした経緯もあり、今回の講演会開催の運びとなりました。外交経験が豊富なガルージン大使は、1983年に外務省に入省し、駐日公使を7年務めた経験もあります。日本語が堪能のため、これまでも元ソ連大統領のミハイル・ゴルバチョフ氏や元ロシア大統領のボリス・エリツィン氏の通訳として、日本とロシアの外交の一翼を担ってきました。

講演会では「露日友好について－教育交流を中心に」と題し、今日までの日露関係における経済や人的交流、外交、歴史などに言及。本年5月の日露首脳会談に触れながら、「ロシアのプーチン大統領と安倍総理大臣の20回目の会談が開かれました。すべての問題が解決したわけではありませんが、着々と日露の友好関係は深まっていると感じます。日本

の総理大臣が初めてサンクトペテルブルク国際経済フォーラムに参加するなど新しい動きも出てきました。今後ますます、グローバル化が進む時代においては、互いを理解するために、民間交流および教育交流を通じた対話が重要であります」と述べました。



学生主催「Global Citizenship Week 2018」を5日間にわたり開催

The student-sponsored "Global Citizenship Week 2018" was held for 5 days

世界の高等教育機関と国連の連携を推進するネットワーク「国連アカデミックインパクト」の活動の一環として、本学の学生団体ASPIRE SOKAが「Global Citizenship Week 2018」を6月18日から22日にわたって開催しました。期間中、「SDGs達成への世界市民としての行動」をテーマに掲げ、ASPIRE SOKAや本学クラブ団体、NPO団体等によるワークショップなど計5つの企画を実施し、最終日には国連開発計画(UNDP)のアフリカ局TICADプログラムアドバイザーの小松原茂樹氏による特別講演会が開催されました。

特別講演会では、主催者でASPIRE SOKA代表の古賀優奈さ

ん(法学部4年)が「SDGsが掲げる達成目標を意識し、自分のことから行動を起こすことが世界市民の第一歩であることを学びました」と述べました。続いて、山口有紗さん(法学部3年)と松本大樹さん(理工学部3年)がSDGs達成に向けた事例報告として、インドネシアのNGOや企業と連携し、現地の小学生を対象とした手洗い教育を実践してきたことなどを紹介しました。

最後に、小松原氏が「SDGsとTICAD: アフリカ開発への期待と課題」と題して講演を行いました。小松原氏は、「TICAD(アフリカ開発会議)での議論が国連の共通目標になっていくケースが多くあります。会議への参加者も第1回の約1,000人から、前回の第6回は約14,000人へと増えており、アフリカ開発への関心の高さがうかがえます。民間企業をはじめ様々な機関が、SDGsで掲げられた目標のどの部分に貢献していくのかを考え、行動していくことが大事だと思います」と語りました。そして、国際社会で働くことを目指す学生に対し、「先入観を持たずに受け入れるオープンマインドが大事です。情熱と使命感をもって学び、国連機関をはじめ、国際社会で活躍できるよう力をつけてほしいと思います」と期待を寄せました。



主催者を代表して古賀さんが挨拶



小松原茂樹氏による講演

卒業5年、10年、20年、30年、40年の方を対象とした卒業生大会を開催

Holding a graduates conference for alumni who graduated 5,10,20,30,and 40 years ago

創友会では、2017年度より、卒業5年、10年、20年、30年、40年の方を対象として、オープンキャンパスや創大祭などの学内イベントに合わせて、卒業生大会を開催しています。2017年度は、3月18日の卒業式に合わせて、1期生大会、2期生と通教31期生の合同大会、3期生大会をそれぞれ開催、2018年度は、5月4日のオープンキャンパスに合わせて、24期・通教19期生大会を開催しましたので、その模様をお伝えします。

1期生大会（3月18日）

卒業43年目となる創友会1期生大会は、3月18日にニューロワールで開催、約370人が集いました。経済学部卒の島田久仁さん、谷政憲さん、文学部卒の小崎貞祐さんから、これまでのそれぞれのご活躍と苦悩を切りひらいてこられた体験が語られました。主催者を代表して、創価大学 田代康則理事長から、草創の決意を忘れず、創立50周年へ向けて元気に再会を、と挨拶があり、参加者全員の署名を行いました。

2期生・通教31期生大会（3月18日）

卒業42年目となる創友会2期生と、通教31期生の合同大会は、3月18日に白鳥体育館で開催、約500人が集いました。2期生を代表して、文学部卒の千野美智子さん、経済学部卒の楢晴雄さん、法学部卒の塩原将行さんから挨拶がありました。その他、様々な分野で活躍されているメンバーの紹介後、「草創の写真スライド」を上映、アメリカ創価大学 ハブキ学長より挨拶があり、最後に全員で創価大学学生歌を大合唱して、再び元気で集うことを誓い合いました。

3期生大会（3月18日）

卒業41年目を迎えた創友会3期生大会は、3月18日に松風センターで開催、約400人が集いました。アメリカ創価大学 ハブキ学長の挨拶の後、経済学部卒の関本孝子さん、寺田園恵さん、伊藤けい子さん、加藤整さん、法学部卒の古賀和則さん、文学部卒の長島敏春さんらが、それぞれの分野で活躍されている様子を代表で報告され、最後に、来賓として山本英夫 元創価大学長から挨拶がありました。

創友会24期・通教創友会19期生大会（5月4日）

創価大学卒業20年目となる創友会24期・通教創友会19期生が約1,400人がディスカバリーホールに集いました。秋谷創友会委員長より創立者のメッセージの紹介があり、文学部社会学科卒の八幡清信さん、工学部生物工学科卒の宿里ひとみさんが、創大卒業生の誇りを胸に様々な困難を乗り越えてきた体験を語りました。最後に皆で創価大学学生歌を大合唱、卒業30周年記念の大会に、元気に集うことを約し合う希望あふれる会合となりました。



ディスカバリーホールに集った卒業生

2018年度 今後の開催予定について

2018年度は、以下のとおりの開催を予定しています。日時・場所などの詳細が決定いたしましたら、創友会より参加対象者の皆様へ、開催日の1カ月前を目処に開催通知を送付いたします。会合の詳細については、今後発送される開催通知にてご確認ください。

※創友会のご登録情報が最新でない場合は、開催通知が届かない場合があります。

※短大白鳥会の大会については、対象期の方に別途、通知いたします。

2018年 開催予定日	7月29日	8月11日	10月6日(予定)	10月7日(予定)	10月8日(予定)
学内行事	オープンキャンパス	オープンキャンパス	創大祭 (創価栄光の集い)	創大祭 (一般公開初日)	創大祭 (一般公開2日目)
対象期	14期 卒業30年		4期 卒業40年	39期 卒業5年	34期 卒業10年
通教創友会		通教4～6期		通教32期 (学部39期と合同)	通教33期 (学部34期と合同)

創学サービス新商品の紹介

Introducing new products at Soka University Service Center

コラボウェア新発売! SOKA UNIVERSITY × NIKE / adidasの 人気モデルです!

創学サービスから新商品のご紹介。アスリートウェアとしてもカジュアルウェアとしても大人気のブランド、NIKEとadidasとのコラボレーションウェアを新発売しました。ユニバーシティロゴとNIKE、adidasロゴのダブルブランドマークが、アクティブライフをひときわグレードアップ。

創大 × adidas

コラボジャージ

ジャージ上 7,600円、下 7,200円
カラー: ブラックとネイビーの2色

創大 × NIKE コラボスウェット

スウェットシャツ 6,200円、
スウェットパーカ 6,600円、
スウェットパンツ 6,200円 (税込価格)
カラー: グレーとブラックの2色



新スイーツも登場! 女子に人気のチョコレートと、お土産にもぴったりの人形焼は、早くも創大名物になりそうです。

創大人形焼 8個入り 800円

創大のマーク入りの人形焼は、来学者のお土産としても大好評!

フリーズドライの イチゴ入りチョコレート 600円

新鮮なイチゴをフリーズドライにして丸ごとチョコレートに。ピンクとホワイトで2種類の味があります。



学生の活躍 Student Activity

硬式野球部

全日本大学野球選手権大会に4年ぶり22回目の出場!

Participated in the Japan National Collegiate Baseball Championship for the first time in 4 years, our 22nd appearance!



力投した杉山投手

「第67回全日本大学野球選手権大会」(主催:公益財団法人全日本大学野球連盟、読売新聞社)に、創価大学硬式野球部が4年ぶり22回目の出場を果たしました。6月12日に東京ドームで行われた1回戦で、創価大学は宮崎産業経営大学(九州地区大学野球連盟南部)と対戦。最後まで粘りを見せたものの2対6で敗れました。創価大学は杉山晃基投手(法学部3年)が先発。初回に151キロを計測するなど直球主体の投球を見せ、序盤は0-0の投手戦となりました。試合が動いたのは5回。本塁打で2点を先制され、8回にも四球や安打で追加点を奪われました。8回裏に、2番・松本丈志郎選手(経営学部4年)、3番・鈴木嘉基選手(経営学部2年)の適時打で一矢

を報いました。

岸雅司監督は、「声援を送ってくださった皆様に心から感謝申し上げます。今日の悔しさを忘れず、秋のリーグ戦、全国大会を目指し、チーム一丸となって練習に励んでまいります」と述べました。創価ナインへ多くのご声援をいただき、ありがとうございました。



適時二塁打を放った鈴木選手

駅伝部

本学駅伝部のムソニ・ムイル選手が関東学連栄章を受賞しました

Runner Muthoni Muiru of the University's Ekiden Club receives decoration from the Inter-University Athletic Union of Kanto



瀬上雄然監督(左)とムソニ・ムイル選手(右)

5月27日、相模原ギオンスタジアムで平成29年度関東学連栄章授与式が行われ、本学陸上競技部駅伝部のムソニ・ムイル選手(経済学部3年)が関東学連栄章を受賞。また、瀬上雄然監督が指導者功労賞を受けました。

ムイル選手は、昨年11月の「八王子ロングディスタンス2017」10000mで27:38:05を記録し、世界学生27位の記録を刻みました。

ムイル選手は、「いつも応援ありがとうございます。このような賞を受賞でき嬉しく思います。直前に迫った全日本駅伝予選会にむけチーム一丸となって練習に励んでいきます」と述べました。

瀬上監督は、「大学を代表して、指導者功労賞をいただくことができました。この賞に恥じないよう、選手一人ひとりが自分の力を最大限に発揮できるよう関わっていきたいと思います」と語りました。

柔道部

女子柔道部が東京学生柔道優勝大会で準優勝！全日本大会でも健闘！

The Women's Judo Club placed 2nd at the Tokyo University Judo Championship! It has performed well in the All Japan National Judo Tournament

平成30年度東京学生柔道優勝大会が5月27日、東京都千代田区の日本武道館で行われ、本学女子柔道部が3人制の部で準優勝を飾り、全日本学生柔道優勝大会への出場を決めました。



男女柔道部のメンバー

そして6月23日に東京・千代田区の日本武道館で開かれた「全日本学生柔道優勝大会」では3人制の部に出場した女子チームが、第3位と健闘しました。

決勝進出をかけた明治国際医療大学戦で、先鋒を務めたキャプテンの矢部瑞希さん(文学部4年)が、相手にポイントを先取されるも、最後に背負い落としで、綺麗な一本を取り勝利。大将戦は落としでしたが、中堅戦で引き分けていたことから、代表戦に勝負がもつれ込みました。代表戦には主将の矢部さんが出場し、必死に技を出し続け全力で奮闘しましたが、あと一步、力及ばず惜敗しました。

石橋清二監督は、「皆様の応援が力となり、全国大会を勝ち取ることができました。選手たちは、目の前の一戦一戦を粘り強く戦い、全力を出し切りました。今回の経験を活かし、また練習を重ね、来年こそは必ず日本一を勝ち取ります」と語りました。

また、今大会の優秀選手に選ばれた矢部さんは、「たくさんの方々から真心の応援をいただき、全員が強い気持ちを持って、全力で戦うことができました。来年こそは必ず日本一を勝ち取れるよう、応援してくださる皆様への感謝を忘れず、固く団結して前進してまいります」と語りました。

チアリーディング

創大生が「ICUチアリーディング世界選手権2018」で3年連続金メダルを獲得

Soka students won 3rd gold medal in a row at the 2018 ICU World Cheerleading Championships

2年連続1位に輝いた「チームチア・ヒップホップ」のメンバー



3年連続の1位を獲得した松尾・尾本さんペア

本学の学生4人が、アメリカのフロリダ州で4月25日～30日(現地時間)に行われた「ICU(国際チア連合)チアリーディング世界選手権2018」に、日本代表として出場しました。今年の大会では、2大会連続で優勝した松尾正樹さん(文学部3年)、尾本幸一さん(教育学部3年)ペアが「ヒップホップ・ダブルス」に、本学学生、瀬下孝一さん(教育学部3年)、森愛海さん(経営学部2年)を含めた日本代表20人が「チームチア・ヒップホップ」に出演しました。

ICUチアリーディング世界選手権大会は、チアリーディング、ダンスという競技の世界発

展と普及のために組織され、現在では参加国100カ国以上、約30,000人という、チアリーディング、ダンスの世界レベルの大会の中では、最も規模の大きい選手権です。ICUチアリーディング世界選手権は、世界中からトップのチアリーダーやダンサーが集まり、その技を競い合う年に一度の公式国際試合です。

今大会では、「ヒップホップ・ダブルス」に出場した松尾さん、尾本さんペアは、3年連続の1位(金メダル)を獲得しました。さらに、「チームチア・ヒップホップ」も、2年連続の1位(金メダル)に輝きました。

理工学部

「ロボカップジャパンオープン2018おおがき」で本学のチームSOBITSが2つの部門で優勝

The University's team SOBITS wins in two categories at the RoboCup JAPAN OPEN 2018 OGAKI



チームSOBITSのメンバー

5月3日～5日にわたり、岐阜県大垣市で開催された「ロボカップジャパンオープン2018おおがき」に、理工学部・崔龍雲研究室のメンバーを中心に構成されるチームSOBITSが出場し、ロボカップ@ホームエデュケーションリーグ、同時開催のWorldRobotSummit/パートナーロボットチャレンジの2つのリーグで優勝に輝きました。ロボカップ@ホームエデュケーションリーグは日常生活で人間を支援するロボットの技術を競うリーグです。また、WorldRobotSummit/パートナーロボットチャレンジは、本年10月に世

界各国からロボット研究者が日本に集い開催される「WorldRobotSummit2018」のプレ大会として開かれました。

チームリーダーを務めた久郷紀之さん(工学研究科・博士前期課程2年)は、「今まで身に付けてきた技術が一つの結果となって嬉しいです。これからは課題を一つ一つ克服しながら、人の役に立つロボットの研究を続けていきたいと思います」と語りました。

チームSOBITSは、本年10月に開催される「WorldRobotSummit2018」にも参加する予定です。

ユースフォーラム

国際開発ユースフォーラム2018に本学GCP生が参加しました

GCP students from Soka University participated the International Development Youth Forum 2018



文化交流会の参加者と

東京都渋谷区の国際オリンピック記念青少年総合センターで、3月11日～18日まで開催された「国際開発ユースフォーラム2018」に本学グローバル・シティズンシップ・プログラムに所属する川上智美さん(経済学部3年)が参加しました。今回の国際開発ユースフォーラムには、世界23カ国・地域から選出された35人の18歳～28歳の青年が参加し、1週間にわたり文化交流会やディスカッションが行われました。フォーラムは、全体テーマ「How should we co-exist with ICT? Does ICT bring us peril or prosperity?」のもと、すべて英語で実施

され「日本の働き方改革におけるICTの導入」「ベトナムの農業におけるICTの活用」「コロンビアの紛争後の平和構築におけるICTの役割」の3つの事例についてグループに分かれ議論をしました。

川上さんは、「日本の働き方改革におけるICTの導入」のグループに所属し、アメリカ、インド、インドネシア、オーストラリア、中国、バングラデシュ、ベトナムから参加した8人とともに、課題やその解決策について議論し、最終日にはプレゼンテーションを行いました。

映画研究会

本学映画研究会の作品が「ハンブルク日本映画祭2018」に選出され、ドイツで上映されました

Works by the University's Film Study Group were selected for the Japan-Filmfest Hamburg 2018 and screened in Germany



映画研究会のメンバー

本学映画研究会が2016年に制作した作品「紫陽花(Hydrange)」が「ハンブルク日本映画祭2018」に選出され、5月26日にドイツの映画館で上映されました。

ハンブルク日本映画祭は、エントリーされた作品から選出された映画をドイツのハンブルクの映画館などで上映する映画祭です。この映画祭では、インディーズから商業大作まで様々な日本映画が上映されます。本学映画研究会の作品「紫陽花(Hydrange)」は、首都圏映画サークル連合が毎年主催する映画コンペティション「シネマターミナルGATE03」に応募した作品で、約50点からファイナルの3点に選出された作品の一つ

です。

今回、首都圏映画サークル連合から「ハンブルク日本映画祭2018」へのエントリーの推薦があり、選考委員会などでの審議を経て多くの作品の中から上映作品に選ばれました。

「紫陽花(Hydrange)」の監督を務めた井上光一さん(2017年卒業)は、「時間や予算など限られた条件で映画研究会のメンバーと制作した映画でしたが、ドイツという全く知らない場所でスクリーンを通して人の心を動かせることが嬉しいです。今後も映画の制作を通し、人の心に感動や喜びを与えていければと思います」と述べました。

2018年度春学期**特待生**

2018 Performance-Based Scholarships

この度、学生部委員会・学部教授会にて審議決定された2018年度春学期特待生が発表されました。特待生とは、各学期 Semesterごとに学業成績が優秀である学生を表彰する制度で、対象者には奨励金15万円が給付されます。

経済学部経済学科 栗田 宗平 Sohei Kurita	経済学部経済学科 谷 梅花 Umeka Tani	経済学部経済学科 肥田 玲那 Reina Hida	経済学部経済学科 布川 裕一 Yuichi Nunokawa
経済学部経済学科 原田 千尋 Chihiro Harata	経済学部経済学科 川上 智美 Tomomi Kawakami	経済学部経済学科 杉本 美幸 Miyuki Sugimoto	経済学部経済学科 杉本 望 Nozomi Sugimoto
経済学部経済学科 鯨島 基継 Mototsugu Sameshima	経済学部経済学科 大北 正明 Masaaki Okita	経済学部経済学科 市川 伸幸 Nobuyuki Ichikawa	経済学部経済学科 川口 良美 Yoshimi Kawaguchi
経営学部経営学科 柳 珍兒 You Jina	経営学部経営学科 西海 藍 Ran Saikai	経営学部経営学科 高山 優果 Yuuka Takayama	経営学部経営学科 明石 健一 Kenichi Akaishi
経営学部経営学科 金 蓮華 Kim Yunhwa	経営学部経営学科 松元 誓嗣 Seiji Matsumoto	経営学部経営学科 石井 勇祐 Yusuke Ishii	経営学部経営学科 新井 修也 Shuya Arai
経営学部経営学科 李 樹萱 Li Shuxuan	経営学部経営学科 倪 智 Ni Zhi	経営学部経営学科 重田 健一 Kenichi Shigeta	経営学部経営学科 森 栄子 Eiko Mori
法学部法律学科 青地 未歩 Miho Aochi	法学部法律学科 花田 広樹 Hiroki Hanada	法学部法律学科 山本 世雄 Seo Yamamoto	法学部法律学科 小山 朝陽 Asahi Koyama
法学部法律学科 縄 あすか Asuka Nawa	法学部法律学科 吉田 正樹 Masaki Yoshida	法学部法律学科 宮本 直美 Naomi Miyamoto	法学部法律学科 分道 優花 Yuka Bundo
法学部法律学科 ミッチェル 哲也 Tetsuya Mitchell	法学部法律学科 山口 有紗 Arisa Yamaguchi	法学部法律学科 広美 ひかり Hikari Hirozane	法学部法律学科 大山 正幸 Masayuki Oyama
法学部法律学科 丸岡 美幸 Miyuki Maruoka	法学部法律学科 徳江 勇輝 Yuki Tokue	法学部法律学科 深谷 舜 Shun Fukaya	法学部法律学科 笠井 康平 Kouhei Kasai
法学部法律学科 中山 詢 Shun Nakayama	法学部法律学科 島津 栄凜香 Erika Shimazu	文学部人間学科 西坂 美幸 Miyuki Nishizaka	文学部人間学科 近藤 良美 Yoshimi Kondo
文学部人間学科 萩 そのか Sonoka Hagi	文学部人間学科 山極 美優 Miyuu Yamagiwa	文学部人間学科 野口 良美 Yoshimi Noguchi	文学部人間学科 金賀 英利 Hidetoshi Kamaga
文学部人間学科 岩井 舞希 Maki Iwai	文学部人間学科 星野 光恵 Mitsue Hoshino	文学部人間学科 関根 みなみ Minami Sekine	文学部人間学科 高橋 ひかり Hikari Takahashi
文学部人間学科 高橋 英一 Eiichi Takahashi	文学部人間学科 吉本 正恵 Masae Yoshimoto	文学部人間学科 岩本 奈保美 Naomi Iwamoto	文学部人間学科 堀 まゆみ Mayumi Hori
文学部人間学科 淀名和 恵美 Emi Yodonawa	文学部人間学科 中後 幸恵 Sachie Chugo	文学部人間学科 桂 友希 Yuuki Katsura	文学部人間学科 久米 直子 Naoko Kume
文学部人間学科 大谷 博志 Hiroshi Otani	文学部人間学科 上野 良美 Yoshimi Ueno	文学部人間学科 濱松 ゆい Yui Hamamatsu	文学部人間学科 陳 芸鳴 Chen Yiming
文学部人間学科 秋山 美香子 Mikako Akiyama	教育学部教育学科 大城 朝周 Tomochika Oshiro	教育学部教育学科 池戸 ななみ Nanami Ikedo	教育学部教育学科 熊谷 きとえ Kitoe Kumagai
教育学部教育学科 根本 莉奈 Rina Nemoto	教育学部教育学科 小嶋 貴子 Takako Kojima	教育学部教育学科 草間 舞 Mai Kusama	教育学部児童教育学科 中川 秀美 Hidemi Nakagawa
教育学部児童教育学科 川合 晴美 Harumi Kawai	教育学部児童教育学科 北郷 彩佳 Ayaka Hokugo	教育学部児童教育学科 矢口 直美 Naomi Yaguchi	教育学部児童教育学科 本多 陽子 Yoko Honda
教育学部児童教育学科 小野 百合香 Yurika Ono	理工学部情報システム工学科 小出 学 Manabu Koide	理工学部情報システム工学科 竹内 大瑛 Hiroaki Takeuchi	理工学部情報システム工学科 森田 孝一 Kouichi Morita
理工学部情報システム工学科 那須 健人 Kento Nasu	理工学部情報システム工学科 井門 史貴 Fumitaka Imon	理工学部情報システム工学科 石渡 美咲 Misaki Ishiwatari	理工学部共生創造理工学科 樹山 さくら Sakura Kiyama
理工学部共生創造理工学科 近藤 菜々子 Nanako Kondo	理工学部共生創造理工学科 鈴木 健太 Kenta Suzuki	理工学部共生創造理工学科 宮林 朋香 Tomoka Miyabayashi	理工学部共生創造理工学科 田中 健児 Kenji Tanaka
理工学部共生創造理工学科 菊地 英一 Eiichi Kikuchi	理工学部共生創造理工学科 佐谷 大史 Hirofumi Satani	看護学部看護学科 西浦 友香 Yuka Nishiura	看護学部看護学科 広島 法子 Noriko Hiroshima
看護学部看護学科 仁尾 咲良 Sakura Nio	看護学部看護学科 安食 奈南 Nanami Anjiki	看護学部看護学科 笠井 彩咲桜 Sakura Kasai	看護学部看護学科 上田 美保 Miho Ueda
国際教養学部国際教養学科 シラトリ シンティア Cintia Kiyomi Shiratori	国際教養学部国際教養学科 坂巻 華乃 Hanano Sakamaki	国際教養学部国際教養学科 飯田 泰弘 Yasuhiro Iida	国際教養学部国際教養学科 西村 晴夏 Haruka Nishimura

2017年度 学校法人創価大学の 事業および決算報告書

Fiscal 2017 Soka University Operation and Balance Sheet



創価大学では、大学運営の効率性、透明性を確保し、大学を支えてくださる関係者や社会一般に説明責任を果たすという観点から、財政情報の開示を行っております。

詳しくはホームページに今回の事業報告および決算各種資料を掲載しておりますので、ご参照ください。

<https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/finance/>

今後とも、「学生のための大学」「社会に貢献する大学」をモットーに、教育・研究の一層の充実を図るとともに、財政の健全化に向けて、鋭意努力してまいります。

2017年度 資金収支計算書

(単位: 千円)			
収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	8,868,271	8,869,350	△ 1,079
手数料収入	255,732	235,315	20,417
寄付金収入	1,684,295	1,957,524	△ 273,229
補助金収入	2,210,964	2,250,768	△ 39,804
国庫補助金収入	2,210,039	2,249,842	△ 39,803
地方公共団体補助金収入	625	626	△ 1
学術研究振興資金収入	300	300	0
資産売却収入	11,000,000	10,735,144	264,856
付随事業・収益事業収入	969,385	985,812	△ 16,427
受取利息・配当金収入	3,565,156	3,482,214	82,942
雑収入	328,480	452,735	△ 124,255
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,234,593	2,063,244	171,349
その他の収入	789,728	871,389	△ 81,661
資金収入調整勘定	△ 2,528,989	△ 2,520,163	△ 8,826
前年度繰越支払資金	8,332,110	8,332,109	
収入の部合計	37,709,725	37,715,442	△ 5,717
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	7,266,325	7,263,456	2,869
教育研究経費支出	6,333,774	5,698,569	635,205
管理経費支出	1,743,899	1,649,850	94,049
借入金等利息支出	1,698	1,679	19
借入金等返済支出	35,540	35,540	0
施設関係支出	736,157	804,949	△ 68,792
設備関係支出	304,153	645,375	△ 341,222
資産運用支出	16,137,000	14,780,636	1,356,364
その他の支出	1,086,308	1,169,504	△ 83,196
(19,716)			
予備費	30,284		30,284
資金支出調整勘定	△ 970,535	△ 1,375,122	404,587
翌年度繰越支払資金	5,005,122	7,041,006	△ 2,035,884
支出の部合計	37,709,725	37,715,442	△ 5,717

2017年度 貸借対照表

(単位: 千円)			
資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	236,377,590	235,471,948	905,642
有形固定資産	101,045,215	103,992,771	△ 2,947,556
土地	18,551,639	18,418,633	133,006
建物	69,381,952	72,016,757	△ 2,634,805
その他	13,111,624	13,557,381	△ 445,757
特定資産	96,467,165	96,567,648	△ 100,483
その他の固定資産	38,865,210	34,911,529	3,953,681
流動資産	7,734,660	8,939,856	△ 1,205,196
現金・預金	7,041,006	8,332,109	△ 1,291,103
その他	693,654	607,746	85,908
資産の部合計	244,112,250	244,411,804	△ 299,554

(単位: 千円)			
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,671,702	3,604,513	67,189
退職給与引当金	3,626,382	3,523,653	102,729
その他	45,320	80,860	△ 35,540
流動負債	3,296,970	2,959,105	337,864
前受金	2,063,244	2,177,297	△ 114,053
その他	1,233,725	781,808	451,917
負債の部合計	6,968,671	6,563,618	405,054

(単位: 千円)			
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	244,443,477	243,809,760	633,717
第1号基本金	168,300,827	167,463,898	836,929
第2号基本金	8,469,763	8,675,976	△ 206,212
第3号基本金	66,642,886	66,639,886	3,000
第4号基本金	1,030,000	1,030,000	0
繰越収支差額	△ 7,299,898	△ 5,961,574	△ 1,338,324
翌年度繰越収支差額	△ 7,299,898	△ 5,961,574	△ 1,338,324
純資産の部合計	237,143,578	237,848,186	△ 704,608
負債及び純資産の部合計	244,112,250	244,411,804	△ 299,554

2017年度 事業活動収支計算書

(単位: 千円)							
教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異		
		学生生徒等納付金	8,868,271	8,869,350	△ 1,079		
		手数料	255,732	235,315	20,417		
		寄付金	1,563,295	1,838,533	△ 275,238		
		経常費等補助金	2,160,474	2,200,278	△ 39,804		
		国庫補助金	2,159,549	2,199,352	△ 39,803		
		地方公共団体補助金	625	626	△ 1		
		学術研究振興資金	300	300	0		
		付随事業収入	969,385	985,812	△ 16,427		
		雑収入	327,957	322,457	5,500		
	教育活動収入計	14,145,114	14,451,745	△ 306,631			
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異		
		人件費	7,369,592	7,366,185	3,407		
		教育研究経費	9,824,893	9,215,279	609,614		
		管理経費	2,262,114	2,181,075	81,039		
		徴収不能額等	80,000	64,048	15,952		
		教育活動支出計	19,536,599	18,826,588	710,011		
			教育活動収支差額	△ 5,391,485	△ 4,374,843	△ 1,016,642	
	教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異	
受取利息・配当金			3,565,156	3,482,214	82,942		
その他の教育活動外収入			0	128,732	△ 128,732		
教育活動外収入計			3,565,156	3,610,946	△ 45,790		
事業活動支出の部		科目	予算	決算	差異		
		借入金等利息	1,698	1,679	19		
		その他の教育活動外支出	0	0	0		
		教育活動外支出計	1,698	1,679	19		
				教育活動外収支差額	3,563,458	3,609,267	△ 45,809
				経常収支差額	△ 1,828,027	△ 765,576	△ 1,062,451
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異		
		資産売却差額	105,602	148,952	△ 43,350		
		その他の特別収入	238,088	275,511	△ 37,423		
		特別収入計	343,690	424,463	△ 80,773		
		事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異	
	資産処分差額		396,210	358,186	38,024		
	その他の特別支出		5,326	5,309	17		
	特別支出計		401,536	363,495	38,041		
			特別収支差額	△ 57,846	60,969	△ 118,815	
			予備費	(19,716) 30,284		30,284	
		基本金組入前当年度収支差額	△ 1,916,157	△ 704,608	△ 1,211,549		
		基本金組入額合計	△ 641,201	△ 714,861	73,660		
		当年度収支差額	△ 2,557,358	△ 1,419,469	△ 1,137,889		
		前年度繰越収支差額	△ 5,961,574	△ 5,961,574	0		
		基本金取崩額	60,815	81,144	△ 20,329		
		翌年度繰越収支差額	△ 8,458,117	△ 7,299,898	△ 1,158,219		
(参考)							
		事業活動収入計	18,053,960	18,487,154	△ 433,194		
		事業活動支出計	19,970,117	19,191,761	778,356		

OPEN CAMPUS 2018

学部・学科の学びを体験できる体験授業や学生に直接質問ができる相談コーナー、学生ガイドが案内しながら広大なキャンパスをまわるバスツアー、池田記念講堂で開催される歓迎フェスティバル、他にも予備校講師による入試問題「傾向と対策」講座（英語・国語・数学）、入試ガイダンスなど多彩なプログラムを用意しています。皆様のご参加をお待ちしています！

参加者登録で記念品プレゼント
オープンキャンパス当日、参加者登録をすると創価大学オリジナルの素敵な記念品をプレゼント！

※創価女子短期大学も同時開催！

2018 7月28日(土) 29日(日)
2019 3月21日(木・祝) 10:00～16:00

8月11日(土・祝) 10:00～15:00

※高校生とその保護者を対象とした「体験授業」「進学相談」を中心に開催します。

創大で、あなたの未来の姿を発見してください!!



相談コーナー



キャンパスバスツアー



体験授業



ワールドイベント



学部企画



Learning Through Discussion 体験

2019年度 入学試験日程決まる！

創価大学			
	出願期間	試験日	合格発表日
PASCAL 入試 (AO入試)※1	2018年8月27日(月)～ 9月5日(水) (郵送 締切日消印有効)	第一次選考 書類審査 第二次選考 2018年10月14日(日)	2018年 10月24日(水)
公募推薦入試※1 ※2	2018年11月1日(木)～ 11月8日(木) (郵送 締切日消印有効)	2018年 11月17日(土)	2018年 11月28日(水)
大学入試 センター試験利用入試 (前期3科目方式)	2018年12月20日(木)～ 2019年1月18日(金) (郵送 締切日消印有効)	2019年 1月19日(土)・ 20日(日)※3	2019年 2月14日(木)
大学入試 センター試験利用入試 (前期4科目方式)			
全学統一入試 (3科目方式)	2018年12月20日(木)～ 2019年1月18日(金) (郵送 締切日消印有効)	2019年 2月3日(日)	2019年 2月14日(木)
全学統一入試 (2科目方式)			
一般入試	2018年12月20日(木)～ 2019年1月18日(金) (郵送 締切日消印有効)	2019年 2月7日(木)・ 8日(金)・ 9日(土)	2019年 2月17日(日)
大学入試 センター試験利用入試 (後期3科目方式)※1	2019年2月22日(金)～ 3月1日(金) (郵送 締切日消印有効)	2019年 1月19日(土)・ 20日(日)※3	2019年 3月11日(月)

※1学科の併願は不可(専願)。 ※2国際教養学部の公募推薦入試の出願資格・試験科目等は他の学部と異なりますのでご注意ください。
※3大学入試センター試験を受験すること。事前に大学入試センター試験の受験申込が必要。

創価女子短期大学			
	出願期間	試験日	合格発表日
自己推薦入試	2018年9月10日(月)～9月19日(水) (郵送 締切日消印有効)	2018年10月13日(土)・14日(日) のうちいずれか1日	2018年10月19日(金)
公募推薦入試	2018年10月24日(水)～11月2日(金) (郵送 締切日消印有効)	2018年11月10日(土)	2018年11月16日(金)
一般入試	2019年1月4日(金)～1月18日(金) (郵送 締切日消印有効)	2019年2月4日(月)	2019年2月13日(水)

キャンパス アカデミック ビジット

Campus Academic Visit

創価大学の実際の授業を高校生・受験生の皆さんに体験していただくことができます

「Campus Academic Visit」を開催します。

この機会に是非、創価大学の日常を体験してみてください！

第1回 9月17日(月・祝)

第2回 9月24日(月・休)

※詳細はWEBから

「創価大学 Campus Academic Visit」で検索

配布中

キャンパスガイド2019

創価大学、創価女子短期大学のキャンパスガイド2019がご請求いただけます。



キャンパスガイド
デジタル版はこちらから



編集部
からの
お知らせ

SUN 編集部では、読者の皆様の声を募集しています。これからも、充実した魅力ある誌面づくりに努めてまいりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

FAX: 042-691-9300 E-mail: sun@soka.ac.jp

